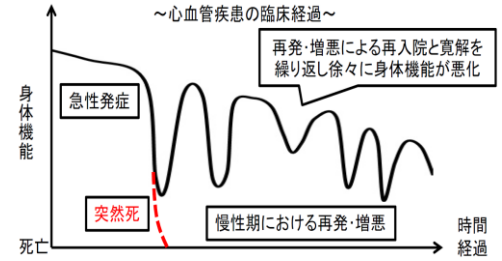


現状と課題

- 心不全は、高血圧、心筋梗塞などが原因となって心臓の機能が悪化し、むくみや息切れ等が生じる病態であり、急性発症の後、再発と寛快を繰り返し徐々に身体機能が悪化する
- 日々の薬物・運動療法や、塩分・水分制限など、生活管理が再発・重症化予防につながるほか、むくみや息切れなどの初期症状出現時に、早期に適切な介入を行うことが重要
- 急性期入院後、回復期リハを経ず、直接自宅等へ戻る患者が多い

一方、以下のような課題が指摘されている

- ① 心不全に関する知識を有する医療・介護関係者が不足
- ② 地域において、**非循環器専門医が心不全患者のかかりつけ医**となっていることが多いため、心不全の特徴を踏まえた診療・生活指導等が困難
- ③ **病院と地域間の情報共有・連携不足**のため、外来診察や急性増悪時の適切な診断・治療や生活指導、退院後の適切な生活管理が困難



目的

地域における医療・介護関係者の理解促進や相談支援の充実を図るとともに、病院と地域の連携・情報共有を強化し、心不全患者が地域で安心して療養生活を送れる体制を整備する。

令和5年度・6年度の実施内容

- ・区部（東京女子医科大学病院）・多摩（榊原記念病院）の各1施設を心不全サポート病院として事業委託
- ・令和5・6年度、医療連携推進部会等で取組を検証し、今後の展開を検討していく

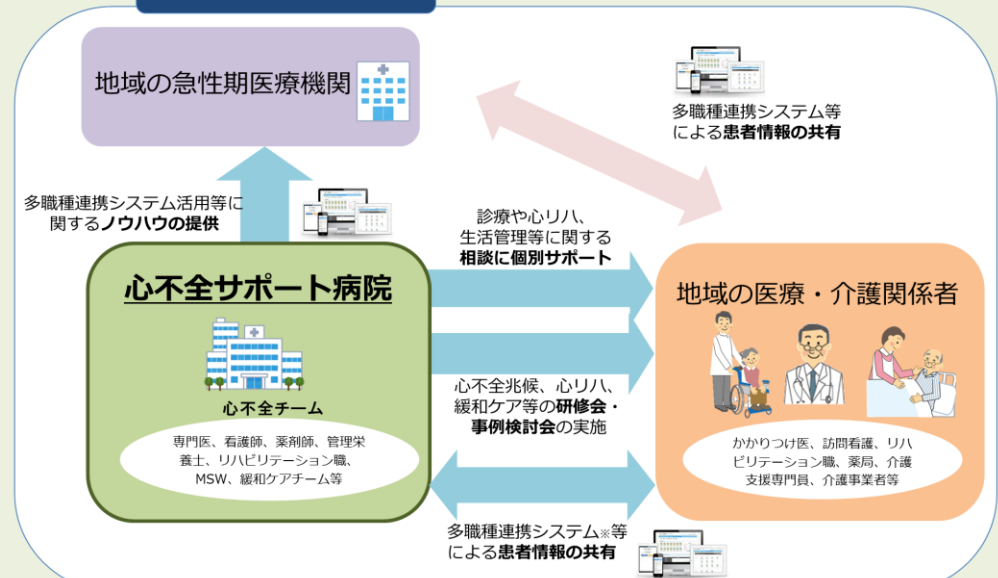
実施内容

- ① 地域の医療・介護関係者を対象に、心不全の知識向上に向けた**事例検討・研修会**を実施
- ② 心不全の適切な診療やリハビリテーション、緩和ケア等の実施に向け、地域の医療・介護関係者からの**専門的な問合せに個別サポート**
- ③ **デジタル技術の活用により**、病院と地域の医療・介護関係者間において**患者情報等を共有**し、連携を促進

心不全サポート病院について

- ① 心不全の急性期も含む入院診療を提供
- ② 近隣の急性期も含む心不全の診療や支援を行っている医療施設及び介護福祉施設等、関係機関と連携できる
- ③ 院内に心臓リハビリテーションや緩和ケア等心不全について専門的な知識を有する人員を配置し、診療科や部門を超え施設全体として本事業に協力できる体制が確保されている

事業実施イメージ



※在宅療養中の患者様を支えている医療・介護関係者の皆様の情報共有の円滑化を目的として、民間事業者が提供するシステム（MedicalCare STATION、バイタルリンク等）